

本当はすごい 信金・信組 / 名門高校 八尾高校 (大阪)

週刊エコノミスト

2017
12/5

毎日新聞出版
定価620円

本当はすごい 信金・信組

金利ゼロで貸し出し
顔が見える営業力

稼ぐ力
ランキング
信金 | 信組
40 | 20

対談

出口治明 × 板谷敏彦

第一次世界大戦から何を学ぶか

信用組

信用金庫

信用組合

信用金庫

信用組合

名門高校の校風と人脈

267

八尾高校 (大阪府立・八尾市)

「昼は高校生、夜は大学生の連携」「離れてすき焼き」の名言、塩爺

大阪市の東南部にある典型的なベッドタウンの八尾市。人口は約27万人で安定している。

日清戦争さなかの1895(明治28)年、この地に大阪府第三尋常中学として創立された。第二尋常中学(現三国丘高校)、第四尋常中学(現茨木高校)と、同時のスタートだ。大阪市周辺の町村の人口増に対応した措置だった。

すぐに大阪府立八尾中学と改称され、戦後の学制改革で男女共学の新制八尾高校となった。

JR八尾駅と近鉄八尾駅の間にあり、交通の便は良い。

キャンパスは約4万2000平方メートルと広大だ。大阪府内の公立高校では3指に入る広さだ。

外壁タイル張りの機能的でモダンな校舎だ。南北2カ所のグラウンド、テニスコート、多目的コート、宿泊可能なセミナールームなど、施設が調っている。

教育目標は「21世紀を担う、骨太の人格を備えた生徒の育成」だ。「骨太」とは、勉強もクラブも学校行事も頑張る、という意味だという。

生徒のキャリア形成の一環として、大阪教育大天王寺キャンパス(夜間学部)で、2、

3年生の希望者が大学生の正規講義に参加できる制度がある。所定の要件を満たした生徒には、八尾高校としての単位が認定される。

「昼は高校生、夜は大学生」と題して、2002年から始めた「高大連携」システムだ。「将来は、教員になろう」と目標を立てる生徒が増えた、という。

大学進学は、関西大、近畿大、関西学院大、同志社大、立命館大など関西の私立大が中心だ。神戸大、大阪教育大など国立大学の合格者は、現役で約20%だ。卒業生で最も知名度が高い

のは、「塩爺」の愛称で人気を集めた政治家の塩川正十郎だ。ろう。

自民党の衆院議員を11期、約33年間務め、運輸相、内閣官房長官などのあと80歳近くなって財務相に就いた。15年9月に死去するまで東洋大総長だった。

融通無碍、変幻自在の「塩爺節」で、ケムに巻いた。「母



塩川正十郎

屋(一般会計)でおかゆをすすっている時に、離れ(特別会計)ですき焼きを食べている」と国の財政を評した例え話は、秀逸だった。

伏見格之助と長尾淳三は東大阪市長を、山西敏一と岡本泰明は柏原市長を、西辻豊は八尾市長を務めた。

住商の現社長

経済界では、住友商事の社長・CEO(最高経営責任者)の中村邦晴がいる。中南米のプエルトリコに2度も駐在するなど、必ずしも本流コースは歩んでこなかったが、12年から社長に就いている。

前田新造は資生堂の社長、会長のもと東芝の社外取締役になり、17年10月24日まで取締役会議長を務めた。

企業でトップを経験した卒業生はさらに、森田桂(武田薬品工業)、橋本俊作(さくら銀行)、牧野明次(岩谷産業)、



中村邦晴

児玉正之（あいおい損害保険）、斉藤浩（栗田工業）、藤田博久（池田泉州ホールディングス）、中本雅美（住友精化）らだ。

辻成晃は、「やきとり大吉」の店舗名で焼き鳥店を全国展開するダイキチシステムの創業者だ。

平岡篤は、世界の2000銘柄を扱う国内有数の輸入ワイン商社であるモトツクスの社長だ。

一柳良雄は、通産官僚出身の経営コンサルタントだ。

釜ヶ崎の赤ひげ

学者では、民法が専門で京大教授、最高裁判事を歴任した奥田昌道、東洋史学の砺波護、会社法の河本一郎、教育史の大田堯、民法の坂田宏と安井宏、労働法の豊川義明、日本中世史の仲村研がいる。

理系では、合成化学の吉良満夫、電気電子情報工学の松岡俊匡がいる。医師では、がんの免疫療法を研究している杉山治夫がいる。

本田良寛は昭和時代後期の医師で、大阪市西成区のあいりん地区（釜ヶ崎）で医療活動を続け、「釜ヶ崎の赤ひげ」と言われた。

植物学者、農業指導者の西岡京治は、1964年から28年間にわたり海外技術協力事業団のロンボ・プランの農業指導者としてブータンの農業振興に尽力した。ブータン国王から「国の恩人」として、英国の「サー」に当たる称号「ダシヨール」を贈られた。

柄子真弓はNGO（非政府組織）のアフガン孤児支援の「ラーラ会」の代表だ。02年以来、現地で孤児院を設立したり、通学用ミニバスを寄贈するなどの活動を続けている。文芸では、昭和時代の流行作家だった五味康祐が旧制時代の卒業だ。53年に「喪神」で芥川賞を受賞、「柳生武芸帳」など時代小説で多くのファンを集めた。音楽評論でも定評があった。

脚本家の檀上茂は、吉本新喜劇の台本を1万本も書き続けた。演出家としても、多くのコメディアンを育てた。



本田良寛

神立尚紀は写真家、ノンフィクションライターだ。太平洋戦争時の零式艦上戦闘機（零戦）の隊長だった宮野善治郎は旧制八尾中卒だが、神立はこの先輩の伝記を06年に上梓した。

ゴジラ生みの親

映画プロデューサーの田中友幸は、特撮怪獣映画「ゴジラ」の生みの親だ。1954年に東宝から初公開された「ゴジラ」の基本設計を発案し、実際の企画として立ち上げたのが、田中だった。

この究極の創造物は、その後一連の「ゴジラ映画」としてシリーズ化され、ハリウッド映画にまで影響を与えた。美術では、金閣寺の方丈杉戸絵と客殿天井画を07年に制作した日本画家の森田りえ子、水彩画家の佳山隆生がOG、OBだ。

昭和歌壇の重鎮、今中楓溪は、戦前に東海林太郎（秋田県立秋田中学、現秋田高校卒）の歌声に乗せて大ヒットした「野崎小唄」の作詞者だ。

昭和時代の作曲家で、オペラ「修善寺物語」を作曲した清水脩もいた。

作曲家、編曲家の上柴はじめ、ギタリストの石田長生、音楽プロデューサーの本間昭光、アニメ、童謡歌手の山野さと子がOB、OGだ。

20年目の紅白

芸能では、演歌歌手の大月みやこが学んでいる。デビュー20年目の「女の港」で1986年に「紅白」初出場、92年「白い海峡」でレコード大賞を獲得した。

映画監督では須川栄三がいた。俳優の青木崇高、マルチタレントのきのしたゆうこ、ラジオパーソナリティーの坂上みきがOB、OGだ。

関学大に進学した松山直樹は、16年の全日本学生落語選手権で「四笑亭笑ん太」名で出場し、日本一に輝いた。恵まれたグラウンドや施設



大月みやこ

を生かして、90%の生徒が部活動に参加している。女子ソフトボール部が1955年に全国優勝している。最近は、陸上競技、バスケットなどが全国大会に出場している。

硬式野球部は春6回、夏4回の計10回、甲子園の全国大会に出場している。

1952年夏には大阪大会予戦から甲子園の準決勝までエース木村保が10試合すべて完封した。決勝戦で初めて兵庫県立芦屋高校に点を取られ、1-4で準優勝にとどまった。木村はその後、早稲田大―南海ホークスで活躍したが、肩をこわして30歳前に現役引退した。

萩井好次は、17年春から同志社大ラグビー部の監督だ。八尾高―同大―社会人のワールドでプレーし、関学大ラグビー部監督などを務めた。

河島博は、NPO法人八尾ベースボールクラブの代表兼総監督だ。18歳から41歳まで30人強の選手がおり、15年の大阪府下のクラブチーム大会では優勝した。

（猪熊建夫・ジャーナリスト）（敬称略、会社社名肩書などは当時。次回は新潟県立佐渡高校、私立新潟明訓高校）